

2020年度地元産業界等と地域の課題解決に向けた連携事業

プロジェクト名	遠隔によるジェンダー平等プロジェクト
大 学 名	聖泉大学
代表者（学生）	陳冬艶
担当教職員	人間学部 准教授 富川拓
連 携 団 体	米原市役所
SDGs 目標番号	5、11

1. 取り組み体制：

- ①聖泉大学人間学部 学生 8名（富川ゼミの学生）、教員 1名（富川）
- ②米原市役所 新規採用職員 13名（各庁舎から参加）、
新規採用職員の研修担当職員 2名

2. 背景・目的：

【背景】

SDGsの取り組みが全国各地で進む中、地方創生、人口減少対策の鍵としてSDGsの目標5「ジェンダー平等」に改めて注目が集まっており、その実現が地方自治体の課題となっている。ジェンダー平等の実現に向けた取り組みは、全国各地の自治体で「男女共同参画政策」として多様な展開を見せている。

各自治体の男女共同参画政策の課題はその地域特性によって異なるが、共通の課題の一つとして、各種取り組みへの「若者の参画促進」がある。ジェンダー平等社会の実現に向けては、次世代を担う若者がジェンダー平等の問題を自分自身の問題として捉え、当事者の一人として取り組みに参画することが非常に重要となるが、多くの自治体では未だ不十分な状況にある。

【目的】

本プロジェクトは、米原市におけるジェンダー平等の実現を目指して、次世代を担う若者たち（大学生と市役所の若手職員）がチームを組み、コロナ禍に対応した遠隔によるグループワークを通して、米原市の現状に即したジェンダー平等政策を検討し、市に提言することを目的とした。

3. 活動内容：

聖泉大学人間学部の富川ゼミの学生と米原市役所の新規採用職員がチームを組み、コロナ禍に対応した遠隔によるグループワークを通して、ジェンダー平等政策（特にLGBTQに関する政策）を検討し、市に提言した。具体的な内容は下記の通りである。

- ①「SDGs」「ジェンダー平等」「LGBTQ」「日本、米原市のジェンダー平等政策」等について学んだ上で、グループごとに「LGBTQ」に関する検討テーマを選定した。
 - ②選定したテーマに基づき、グループごとに日本や米原市の現状と課題について調査分析を行った。
 - ③分析結果をもとに、米原市の課題を解決するためのジェンダー平等政策をグループごとに検討した。
 - ④検討した政策案を発表し、全グループで共有した。
 - ⑤政策案をまとめて、プロジェクトの「報告書」を作成し、米原市に提出した。
- ※参考資料 「令和2（2020）年度 米原市政策形成入門研修、聖泉大学人間学部プロジェクト演習（富川ゼミ） 報告書」

4. 目的の達成状況、成果 （SDGsの目標達成含む）

- ①当事者である若者たち（大学生と市役所の若手職員）が地域の現状に即したジェンダー平等政策を検討し、米原市のジェンダー平等（男女共同参画）担当部局に直接提案することができた。
- ②コロナ禍での活動であったが、遠隔実施によって当事者である若者たちの協働を実現した。
- ③メディアに働きかけを行い、活動内容が掲載されたことにより、ジェンダー平等の重要性についてより広く周知することができた。中日新聞2020年12月31日掲載



5. 課題、懸案事項

- ①提案した政策の実現に向けて、来年度以降の具体的な活動を検討する必要がある。
- ②提案した政策の実現に向けては、聖泉大学と市役所だけでなく、市民や企業、学校などとの協働体制の構築が必要となる。